



リポーター
釣 志津子さん(入間川在住)
釣 みずきちゃん

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市の施設や事業をご紹介します。



簡単に史跡巡りができたね。今回はお父さんも一緒に他のコースを巡って、夏休みの宿題にできたらいいな

さあ、携帯電話を持って

まちへ出かけよう

最近の携帯電話は、通話するだけでなくメールの送受信や写真・動画の撮影機能のほか、インターネットでさまざまな情報を得ることができて便利ですね。市の情報も携帯電話から得られるのを皆さんはご存じですか。

狭山市公式モバイルサイトは平成14年11月にオープンしました。毎日多くのアクセスがある市の公式ホームページと同様に、毎日更新されています。電車の時刻表や選挙速報、公共施設予約サービス、ごみの収集日程など、そのメニューは豊富で、モバイルならではの

利点、どこでも、いつでも見られることを生かした情報源です。今回は、そんな利点を十分生かして新しくスタートしたモバイル史跡巡りガイドを、夏休み中の娘と二人でレポートします。

このガイドには現在、狭山市駅西口周辺(約4km)と入曽駅東口周辺(約4km)、新狭山駅北口(奥富)周辺(約5.4km)の3コースが用意されています。画面ではそれぞれのコースの順路、地図、史跡の説明、そして史跡に関係のあるさやまの絵本も見ることが出来ます。思い立ったときに手軽に史跡巡りができるように...ということを考えてメニューです。たくさん写真と細かな解説も載せて、実際に史跡巡りをしなくても携帯電話の中でも史跡巡りが体験できるようにしています。と担当の方が話されます。

娘と一緒に携帯を片手に狭山市駅西口周辺コースを歩いてみました。まずは携帯電話でインターネットに接続してモバイル史跡巡りガイドを呼び出し、コースを選びます。案内に従って狭山市



道路では十分注意してください

駅西口を出発、バス通りを下り、右側の毛糸屋の先の路地を右折すると突き当たります。最初の史跡綿貫家の墓地」を簡単に見つけることができました。そして福徳院から徳林寺、八幡神社、清水八幡...それぞれの史跡で解説を読みながら画面の写真を比べます。ガイドには、通常見ることができない文化財なども載っています。最後に慈眼寺を訪れ、約2時間30分の史跡巡りが終了しました。

私は狭山市育ちなので、これまで、何気なく訪れていたところが何か所もありました。しかし、その歴史やいわれなどを改めて学ぶことができ、とても楽しい史跡巡りでした。最新の携帯電話を片手に古い史跡を巡るなんてちょっとおしゃれですね。皆さんもこの夏、ご家族で市の歴史文化に触れてみてはいかがでしょうか。

公式モバイルサイトは、新鮮な情報とその多さを誇っています。そして、今後は、バスの時刻表や給食の献立表なども掲載する予定とのことですので、このサイトがどこまで便利になるのかとても楽しみです。(3ページに関連記事)

オピニオン

質の高い文化を享受する場を

地域の中でどう作っていくかが今後の課題

私は狭山市文化団体連合会に加盟しており、パソコンの技術を生かして会報「ネットワークニュース」やホームページを制作し、加盟団体の活動や市民芸術イベントなどを紹介しています。



その中で狭山市の文化活動や文化情報の発信について学ぶ機会が多く、また他市町村の文化行政情報にも接してきました。私は、芸術は人間が健康で文化的な生活を営む上で、健康や福祉・教育と並ぶ高い公共性を持つと考えます。また、基本的権利として「文化権」を主張する人もいます。高齢社会を迎え、質の高い文化を享受する場を地域の中でどう作っていくかが今後の課題だと思います。さらに、「アートマネージメント」という芸術と社会との関わりについての学問も生まれているよう

で、学芸員のような専門的な文化行政官をおき、芸術を核にまちづくりを進める市町村も出てきています。入間市のアリットやアミーゴといった文化施設を見て、狭山市でも行政と市民との新しい協調による21世紀にふさわしい地域の文化づくりが進むことを望みます。

すなみかずなり
角南一成さん(狭山台在住・50代)

市からの回答

市民意識は、物質の豊かさから「心の豊かさ」「生活の質」を重視するようになり、市民の文化活動も「観る立場」から「演じる側」へと変化が見られます。こうした中で、狭山らしさの創造と市の文化的イメージの向上を目指し、市民参画で開催するサロンコンサート・さやま大茶会は、季節の風物詩として親しまれています。また、市民文化祭や市民展など手作りの文化事業、市民会館の自主文化事業も盛んです。今後も、国内外の姉妹都市や友好交流都市と交流を図り、さまざまな文化に接する機会を増やすとともに、図書館や博物館などの学習・文化活動施設を充実します。そして文化活動をとおして互いの価値観を尊重し、生き生きと暮らせるように取り組むとともに、次代を担う子どもたちに狭山の文化を引き継いでいきたいと考えています。

担当：教育委員会・国際文化課



AET corner

Sharon Henry・入間野中学校勤務

Working at a junior high school in Japan reminds me of my experience as a JHS student. In Canada we don't have to take an entrance

exam to get into high school. We must attend the closest high school to our home so there is no stress at JHS trying to pass an entrance exam. In my area of Canada we don't have "school lunch". Each day the students must bring their lunch or go home for lunch. Some JHS have large cafeterias where students can buy their lunch and eat together. Also in Canada the students are not responsible for cleaning the school. I wonder what would happen if Canada tried to introduce the practice of students cleaning the school. Somehow I don't think it would be very successful! Ask any JHS students and they will tell you that are good and bad things about JHS life but it is a fun time and should be enjoyed by all.

日本でAETとして働いていると、カナダでの中学生時代を思い出します。カナダでは高校入試はありません。自分の家にできるだけ近い高校へ入学します。高校入試に合格しようというストレスはありません。カナダの私の住んでいた地域では、給食はありません。毎日弁当を持って行くか、昼食のために家に帰らなければなりません。いくつかの中学校では、大きなカフェテリアがあり、そこで生徒は昼食を買って友達と一緒に食べることができます。またカナダでは、生徒が清掃をする義務はありません。もしカナダで生徒に清掃をするように取り組んだら、どんなことになるでしょうか。おそらくうまくいかないと思います。カナダの生徒にたずねてみてください。そうすれば、中学生生活について良いこと・悪いことを教えてくれるでしょう。それは愉快でみんなが楽しめる時間なのです。

<シャロン・ヘンリー>(英文の要約)

● 6年生が全員参加する金管バンド 音楽が子ども達の心を豊かにします

の歴史があります
敬老会・体育祭などで、地域の披露の機会も多い金管バンドは、なんと43年も



● 水の豊かな「水富地区」だからこそ 水をきれいにする活動も盛んです

水富地区を流れる「根堀」は15年ほど前まで汚染が進んでいましたが、「根堀をきれいにする会」をはじめとする地域の皆さんの努力で、鯉がゆったりと泳ぐきれいな水路となりました。私たちの学校では、「みずわタイム」と名付けた総合的な学習の時間を利用して、水に富むこの地域環境を考える活動に積極的に取り組んでいます。行事などには大勢の地域の方が参加・協力してくださり、地域ぐるみで子育てが実践されている、地区の拠点でもある学校です。

水富小学校